



Journal

第20号

2026(R8)年10月16日
山形県立寒河江高等学校

新聞部

すごい実績より「どう生きてきたか」

～大学入試で本当に評価されるポイント～

9月1日より、総合型選抜の出願が始まった。1・2年次の生徒の中には総合型選抜や学校推薦型選抜というものが、どのような入試の形態であるかということかあまり知らない人もいるだろう。そこで新聞部では進路指導課の竹田利枝子先生にインタビューを行った。



↑新聞部の質問に快く回答してくださる竹田利枝子先生

Q 一般選抜と推薦入試の違いは何か
まず、大学入試には一般選抜と推薦に類する総合型選抜(以下総合型)と学校推薦型選抜(以下学推型)という3種類の入試の方式がある。一般選抜は学科

試験が課され、学校によっては小論文だったり面接が課されるところもある。学推型は学校長による推薦が必要で試験形態であり、高校3年間の評定平均値が、求められる基準を超えていなければ出願できない。選考方法は主に書類審査や面接、小論文などがあるが、直接学力を確かめる口頭試問や共通テストの受験を課す大学も少なくない。また、基本的には専願である。総合型は学推型と似ているが、学校長からの推薦が無くても出願できることが多く、大学が求める学生像(アドミッションポリシー)に一致することがより重要視される点が異なる。どのような人物なのかという点を学推型よりも、より多角的にみられる。講義を聞いてレポートを書いたり、発表したりすることや、共通テストを課される場合もあり、いずれにせよ基礎学力は必須である。また、今でも面接を実施している大学は多いが、令和9年

度入試以降、学推型と総合型では面接が必須となった。しかし令和11年度までの猶予期間が設けられているため、学校によってはまだ面接がないところもあるかもしれない。

Q 学推型や総合型で合格するためにはどういった意識をもって取り組むべきか
まずそもそもスポーツ推薦とかそういうのものでない、部活動や委員会活動等をやったというだけでは、あまり入試に関係してこない。そういった活動の中で個人がどういった事を学び、どういった能力を身に付けてきたか、どんな努力をしてきたか、それらをつなぎ合わせ、大学でどのように発揮できるか、将来にどのように活かそうと考えているのかの方が大切になってくる。また、部活動などを通していろいろな人と繋がり、人とかかわり、積み重ねていくことは、大学入試だけでなく、この先の人生にとっても重要なことだと思う。

Q 学推型や総合型で合格しそうだと感じた生徒の特長は

あるか

この2つの入試を受けるにあたって向き、不向きというものがあがるが、自分のことを語ることが出来て、いろいろな人と関わってきた人が合格している印象がある。また、自分のことだけでなく、他人と話ができて、ということも大切である。入試というものは18年間近く生きてきた人生が濃くあらわれるものだと思う。だから、その直前に面接練習だけを焦つてするという付け焼刃の対策だけでなく、日ごろから部活動やボランティアなどで色々な人と関わったり、本を読んだり、新聞を読んだりして知識や教養を積み重ねて人間として深みを出すことが大事だと思う。

Q 学推型や総合型を受ける生徒がしがちな失敗は何か
まずそもそも受験をするうえで準備が足りていない生徒は失敗する。また、大学が公開しているアドミッションポリシーにあまりにも沿っていないのを受けているという生徒も失敗しがちである。学推型や総合型で合格を勝ち取る

には様々な準備が必要だ。また、一般選抜の勉強との両立も必要となる。大学で何をしたいかなどが決まっておらず、早い時期に合格して受験勉強を辞めたいという安易な考えで、受験する大学のことを良く知らないまま受験するのは、とてもリスクが高い。受からなかったとしてもすぐに切り替えて一般選抜に向けて勉強に取り組みることのできるメンタルの強さも必要だ。

この記事を読み、1・2年次で学推型や総合型を考えている人は、来年・再来年に受験をする際には是非活かしてほしい。また、多くの大学で取られている総合型と学推型の大まかな日程について本紙右下に掲載している。大学ごとに細かい日程は違い、共通テストを課すかどうかでも日程が変わってくるので、1・2年次は今のうちに志望校がどのような入試形態をとるかを調べておくといだろう。

多くの大学で採用されている入試のスケジュールの例

	総合型選抜	学校推薦型選抜
推薦の形態	自己推薦	学校長による推薦
出願期間	9月1日～10月上旬	11月1日～11月中旬
試験・選考期間	1次：9月下旬・2次：10～11月	11月中旬～11月下旬
合格発表	11月～12月、2月	12月上旬、2月

進路の道しるべ

進路指導室にせまる

皆さんはクラスルームのデジタル進路資料室と進路指導室横の進路資料室を利用したことあるだろうか？3年次生は利用したことがある生徒も多いと思うが、1・2年次生は利用したことがない生徒

も多いであろう。そこでこのコラムではデジタル進路資料室と進路資料室で出来ることを紹介していく。

まず、基本的にできることは変わらず、進路資料室の方がより多くの情報を知ることが出来る、具体的に言えば、この進路資料室は進路通信(入試に関する基本的な情報、赤本(進路資料室のみ閲覧可)、進研模試過去問、受験報告書合格書戦記、就職活動についての報告書がある。特に、受験報告書と合格書戦記に関



↓デジタル進路資料室クラスコード

しては、赤本や参考書だけではわからない大学入試のことについても詳しく知る事が出来るので、一度見てみるのも良いだろう。また、赤本については2025年度以降に発行したものは進路資料室内にあるが、2024年度以前に発行されたものは図書室前の廊下にある。また、どちらも貸し出しを行っているが、2023・2024年度のものは進路指導課の先生に言えばもう一つ出来る。また、デジタル進路室のクラスコードで進路資料室に貼られている。この機会に一度利用してみてもいいだろう。